

2018年度 AP事業アセスメント科目 自己評価ルーブリック結果報告

看護学部 AP 推進チーム

1. 目的：自己評価点検のデータとする
2. 収集データの情報

No.	実施年度	アセスメント科目	受講学年	対象学生の入学年度	自己評価ルーブリック
1	2016	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2016年度生	学期始め
2	2016	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2016年度生	学期終り
3	2017	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2017年度生	学期始め
4	2017	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2017年度生	学期終り
5	2018	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2018年度生	学期始め
6	2018	マイルストーン科目（健康と生活）	1年	2018年度生	学期終り
7	2018	タッチストーン科目（成人慢性期援助論Ⅱ）	3年	2016年度生	学期始め
8	2018	タッチストーン科目（成人慢性期援助論Ⅱ）	3年	2016年度生	学期終り

3. 分析の方向性

- 1) マイルストーン科目（健康と生活）の自己評価ルーブリックデータ 2016～2018年度（3年間）
 - ・ 1年生の汎用的能力の3年間の推移を明らかにする。
 - ・ 1年生の看護志向性の3年間の推移を明らかにする。
- 2) タッチストーン科目（成人慢性期援助論Ⅱ）の自己評価ルーブリックデータ 2018年度（1年間）
 - ・ 3年生の汎用的能力および看護志向性について明らかにする。

4. 調査方法および調査内容等

1) マイルストーン科目について

創価大学AP推進本部により作成された「マイルストーン学期はじめ」ルーブリックと「マイルストーン学期終わり」ルーブリックを、それぞれ科目開始時と科目終了時に一斉配布し、事務室カウンターにて留め置き回収を行なった。記入シートは、マークシート記入方式であり、学部・学科、氏名、科目、担当教員は記述で求めた。各シートの質問項目は5項目、0～9の選択肢から1つを選択する。選択肢0が最も低い評価であり選択肢9が最も高い評価である。学期はじめルーブリックの質問項目内容は、①学びの計画性、②大学生としての自覚、③学習者としての自覚、④新しい仲間作り、⑤看護師へのキャリア成熟性1、であった。学期終わりルーブリックの質問項目内容は、①学びの計画性、②学習者としての自覚、③人間関係力1、④人間関係力2、⑤看護師へのキャリア成熟性2、であった。

2) タッチストーン科目について

創価大学AP推進本部により作成された「タッチストーン学期はじめ」ルーブリックと「マイルストーン学期終わり」ルーブリックを、それぞれ科目開始時と科目終了時に一斉配布し、事務室カウンターにて留め置き回収を行なった。記入シートは、マークシート記入方式であり、学部・学科、氏名、科目、担当教員は記述で求めた。各シートの質問項目は5項目、0～9の選択肢から1つを選択する。選択肢0が最も低い評価であり選択肢9が

最も高い評価である。学期はじめルーブリックの質問項目内容は、①計画性、②情報収集力、③自己調整力、④グループ討議力、⑤看護師へのキャリア成熟性1（看護師という職業への関心）、であった。学期終わりルーブリックの質問項目内容は、①学びの計画性、②学習者としての自覚、③人間関係力1、④人間関係力2、⑤看護師へのキャリア成熟性2（看護師になる心構え）、であった。

5.集計方法

「マイルストーン学期はじめ」ルーブリックと「マイルストーン学期終わり」ルーブリック、「タッチストーン学期はじめ」ルーブリックと「マイルストーン学期終わり」ルーブリックのデータについて記述統計を行った。

6. 結果および考察

1) マイルストーン科目（健康と生活）の自己評価ルーブリックからの結果

ここでは、2016年度から2018年度の3年間におけるデータを基に分析した。

図1は、マイルストーン科目における学期始め時の汎用的能力に関する経年変化の得点を示している。「学びの計画性」は年々減少しているが、「大学生としての自覚」「学習者としての自覚」「新しい仲間作り」の得点には経年変化は見られなかった。図2は、マイルストーン科目における学期終わり時の汎用的能力に関する経年変化の得点を示している。「人間関係力2」の得点が上昇していた。その他の汎用的能力得点に経年変化は見られなかった。

図1.マイルストーン科目学期始め調査における
汎用的能力の経年的変化(点)

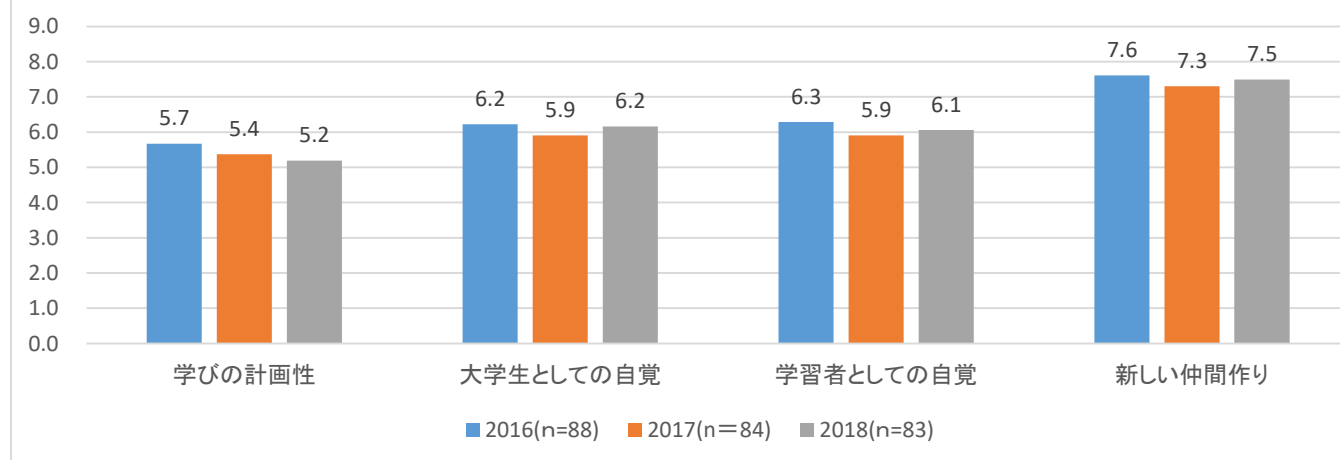


図2.マイルストーン科目学期終わり調査における
汎用的能力の経年的変化(点)

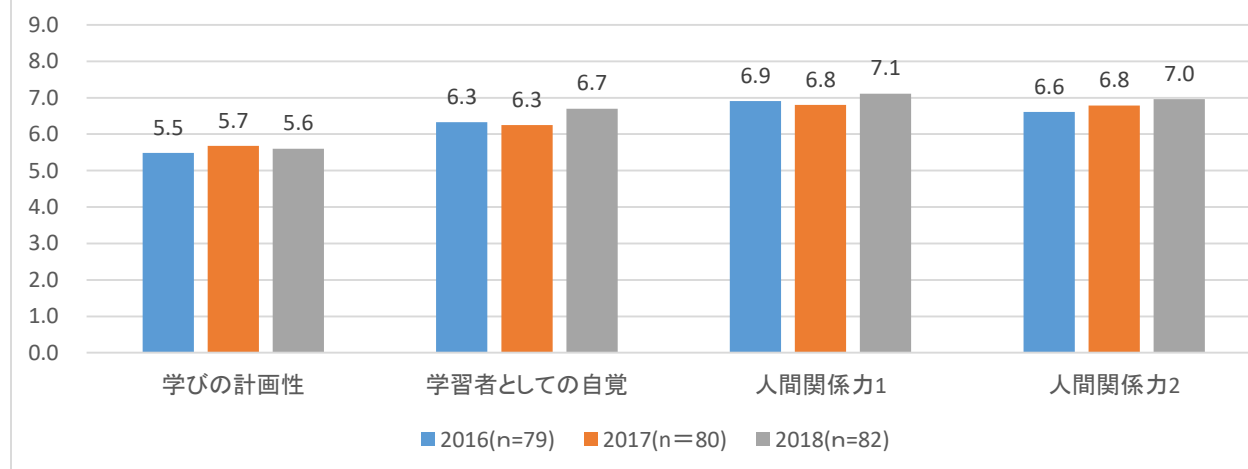


図3は、マイルストーン科目における「学びの計画性」について学期前後の得点の経年変化を示している。2016年度は学期前後で差が無いが、2017年度と2018年度は学期始めよりも学期終わりの得点が高くなった。また図4に示すとおり、マイルストーン科目における「学習者としての自覚」も、2016年度は学期前後で差が無いが、2017年度と2018年度は学期始めよりも学期終わりの得点が高くなった。

図3.マイルストーン科目における「学びの計画性」の
学期前後の経年的変化(点)

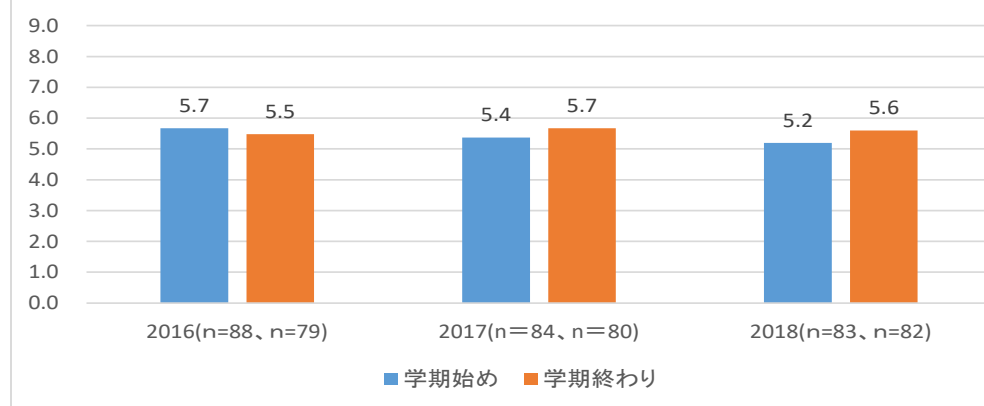


図4.マイルストーン科目における「学習者としての自覚」の
学期前後の経年的変化(点)

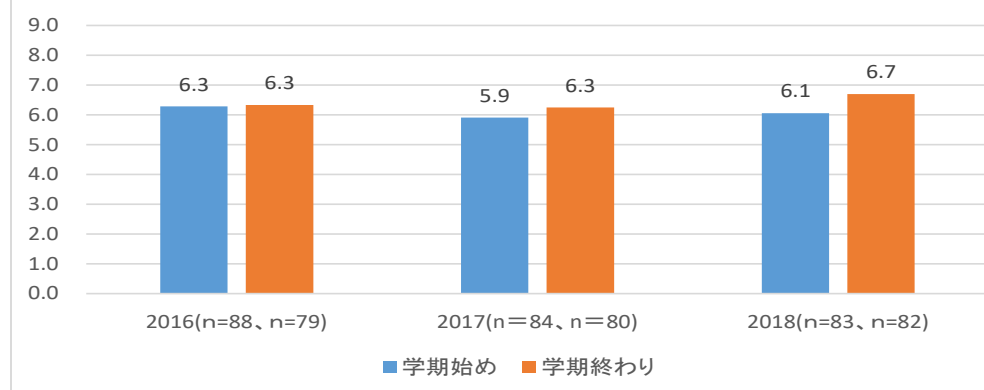
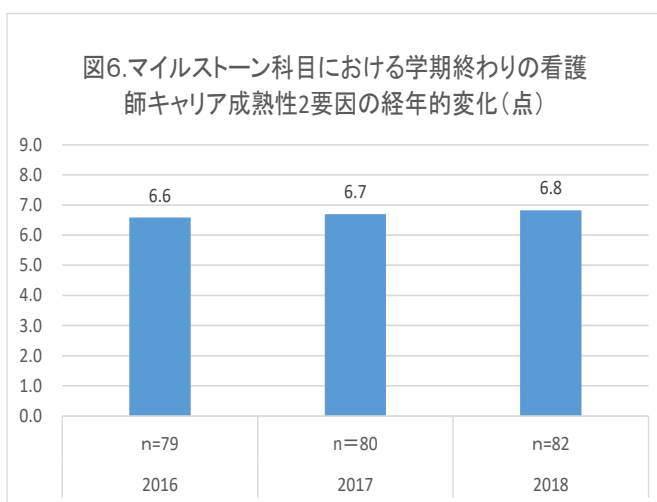
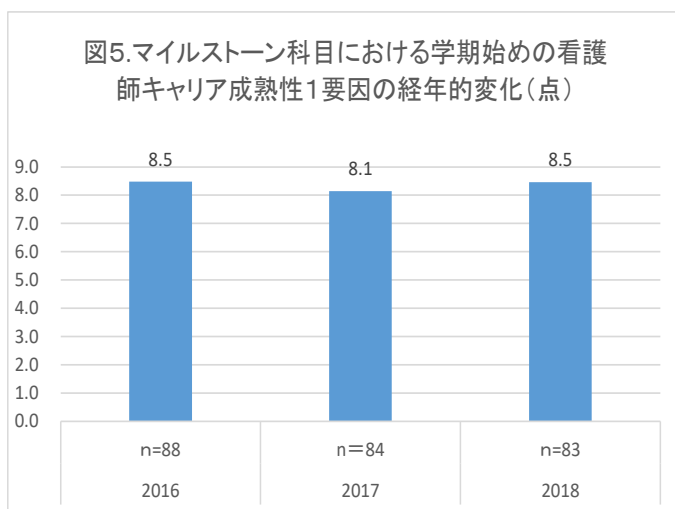


図5は、マイルストーン科目における学期始めの看護師キャリア成熟性1の要因得点について経年変化を見たものである。2016年度から2018年度では得点変化は見られなかった。ただ、図6に示すとおり、マイルストーン科目における学期終わりの看護師キャリア成熟性2の要因得点については、年々得点が増加していた。



2) タッチストーン科目 (成人慢性期援助論Ⅱ) の自己評価ルーブリックからの結果

図7は、2018年度のタッチストーン科目における学期始めの汎用的能力等の得点を示している。汎用的能力で高い得点は、「グループ討議力」6.4点であり、次いで、「自己調整力」5.7点、「計画性」5.4点、「情報収集力」5.2点の順であった。「看護師のキャリアへの成熟性1」は7.8点であった。

図8は、2018年度のタッチストーン科目における学期終わりの汎用的能力等の得点を示している。汎用的能力で高い得点は、「人間関係力2」7.0点、次いで「人間関係力1」6.5点、「学習者としての自覚」6.4点、「学びの計画性」6.2点の順であった。「看護師のキャリアへの成熟性2」は6.8点であった。

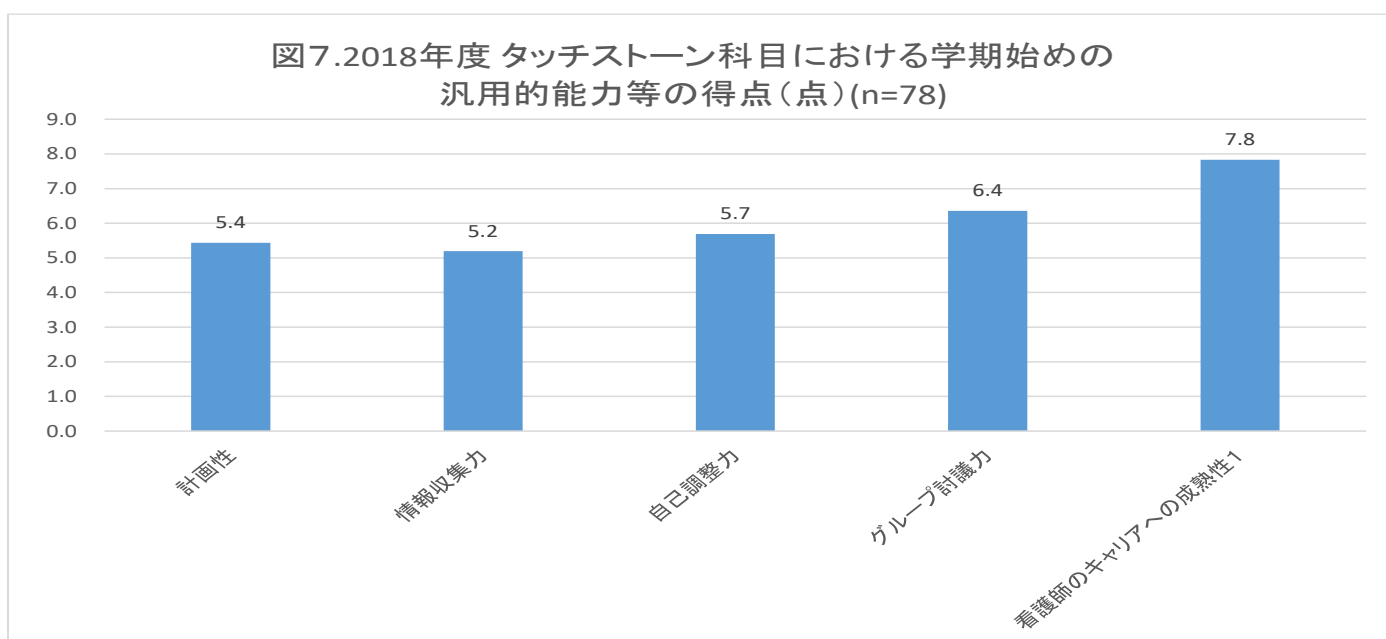
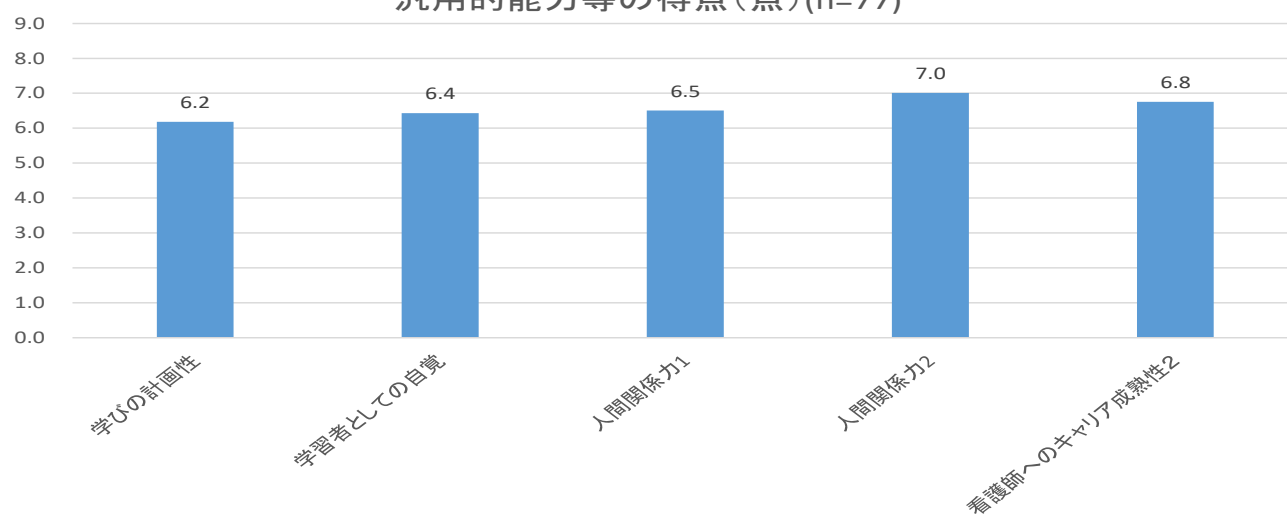


図8.2018年度 タッチストーン科目の学期終わりの
汎用的能力等の得点(点)(n=77)



7.まとめ

マイルストーン科目については3年間を経年的に集計した。「学びの計画性」について学び始めは年々低下するが、学期終わりに得点の低下は見られなかった。よって、マイルストーン科目の学び始め時、つまり入学直後の「学びの計画性」に関する自己評価は年々低下しているものの、学期終わりには、その低下が見られなかったことから、「学びの計画性」の能力が涵養されたと考えられる。また、どの年度でも、「学びの計画性」と「学習者としての自覚」の得点が、学期始めに比べ学期終わりに上昇していたため、これらの能力も涵養されたと考える。また、学期初めの「看護師キャリア成熟性1（看護師という職業への関心）」は、年度における得点差は無いものの、学期終わりの「看護師キャリア成熟性2（看護師になる心構え）」は年々得点が増した。これらから入学直後の、看護師という職業への関心については、どの年度も差が無いが、学期が終わる時の看護師になる心構えは、年度が進むにつれ、少しずつ高まって来たと考えられる。

タッチストーン科目におけるアセスメントは2018年度が初めてであった。学期始めと学期終わりで共通する項目である「学びの計画性」は、5.4点から6.2点に大きく伸びていた。一方で、看護師キャリア成熟性を、マイルストーン科目とタッチストーン科目で比べると、学期初めの「看護師キャリア成熟性1（看護師という職業への関心）」は、マイルストーン科目で8.1～8.5点、タッチストーン科目で7.8点であり、差が無かった。また学期終わりの「看護師キャリア成熟性2（看護師になる心構え）」も、マイルストーン科目で6.6～6.8点、タッチストーン科目で6.8点であり、こちらも差が無かった。1年次よりも3年次で、看護師という職業への関心や看護師になる心構えは上昇するか否かと予想したが、今回の自己評価ルーブリックによる調査では大きな違いが無かった。

以上のまとめを生かして、看護教育における汎用的能力の育成と看護師としてのキャリア成熟を期して参りたい。